

## 令和4年度

### 消防委員会（第2回）会議結果

1 開催日時 令和4年12月16日（金）午後4時00分～午後17時10分

2 開催場所 成田市花崎町760番地  
成田市役所 議会棟3階 第一委員会室

3 出席者  
消防委員

村島 義則、長谷川 能正、伊藤 正美、岩館 剛三郎、伊藤 新一、四宮 良孝  
小泉 町子、小倉 ひとみ、豊根 浮文子、前田 修、長谷川 雅昭

11名

出席職員

消防長（青野 穰）、次長（池田 博美）  
消防総務課長（松尾 芳幸）、予防課長（佐藤 正則）  
警防課長（弓田 春男）、指揮指令課長（竹尾 正明）  
成田消防署長（鈴木 俊幸）、赤坂消防署長（飯嶋 等）  
三里塚消防署長（檜垣 勝美）、大栄消防署長（伊藤 幸一）

10名

消防団

団長（藤崎 和彦）、副団長（中川 浩史）、副団長（鈴木 康則）

3名

事務局

消防総務課長補佐（吉岡 金一）、消防総務課主幹兼総務人事係長（藤崎 伸幸）  
消防総務課主査（岩佐 賢明）

3名

4 議事

報告第1号 「令和4年上半期消防概要について」

佐藤予防課長：

それでは、予防課から「上半期の火災の概要」について報告をさせていただきます。  
資料2ページをお開きください。

「月別統計」ですが、月別の出火件数をみると、令和4年は1月が9件で最も多く、次いで5月の8件となっています。昨年上半期に比べ、3件増加し、39件の火災が発生しています。

続いて、「種別統計」ですが、種別ごとの火災件数をみると、令和4年は「建物火災」が21件で最も多く、次いで「その他の火災」が16件となっています。昨年上半期に比べ、建物火災は8件増加しています。

続いて、「出火原因」ですが、原因別の出火件数をみると、令和4年は電気機器等に

よるものが6件で最も多く、次いで火入れの5件と続いております。

その他の8件につきましては、表の原因に分類されないものをまとめたものとなっています。

予防課からの報告は以上となります。

弓田警防課長：

それでは、本年上半期の救急・救助概要についてご報告をさせていただきます。

資料の3ページをご覧ください。

本年上半期の救急出動件数は3,548件、前年より441件増加し、搬送人員は2,994人、前年より232人増加しております。月別の救急出動件数では、1月が656件と最も多くなっており、搬送人員につきましても救急出動件数と同様に1月が最も多く558人となっております。救急出動が増加した要因は、通常の救急出動に加え、新型コロナウイルス感染症患者の増加が影響し、救急出動件数が昨年より増加したと考えております。

次に、種別ごとの出動件数では、最も多いのが急病で2,354件と出動全体の約66%に当たり、続いて一般負傷、その他、交通事故の順となります。種別ごとの搬送人員につきましても、種別ごとの出動件数と同様であります。なお、その他の種別の主なものは病院間の転院搬送であります。

資料の4ページをお開きください。

傷病程度別の搬送人員では、最も多いのが軽症で1,395件と出動全体の約47%を占めており、続いて中等症、重症、死亡の順であります。

つづきまして、上半期の救助の概要についてであります。

上半期の救助出動件数は66件で前年より20件増加しております。種別ごとの件数では「建物等による事故」が29件と最も多く、前年比で27件増加となります。この増加した要因は、施錠された室内や車内に急病人がいるなど鍵やドアの破壊が必要となった事案が、昨年「その他の事故」として分類されておりましたが、本年4月から「建物等による事故」に分類することとなり27件増加いたしました。次いで「その他の事故」が19件となります。

資料の5ページをご覧ください。

上半期のその他の概要であります。本年上半期の出動件数は547件と前年より38件増加となります。次に種別ごとの出動件数であります。PA連携が312件となり前年より24件の増加となります。救命対応の救急出動にAEDなどの救急資機材を配備した消防隊が同時に出動して傷病者の処置や救急隊の補助にあたるPA連携出動が昨年同様に最も多い出動種別となります。続いて救急支援が86件でありました。PA連携との違いでございますが、交通事故現場での安全管理や救急車内までの搬送が困難な場合など救急隊の補助を目的としたものであります。

以上、ざっばくですが、本年上半期の救急・救助の概要説明とさせていただきます。

竹尾指揮指令課長：

それでは、令和4年上半期における、ちば消防共同指令センター及び成田市の、119番通報受付の概要について、ご説明いたします。

資料6ページをお開きください。上半期の指令統計(1)119番通報月別統計をご覧ください。

上半期の指令統計ですが、ちば消防共同指令センターでは、令和4年合計、111,238件。昨年より14,089件増加しております。月別としましては、昨年より2月が3,019

件で最も多くなっております。

次に、成田市においては、令和4年合計4,564件。昨年より577件増加しております。月別としましては、昨年より6月が158件で最も多くなっております。

#### 【質疑等】

伊藤（新）委員：

令和3年度消防年報を拝見させていただいた中で、病院到着までの時間が90分位かかっていたという統計資料がありましたが、改善の傾向にあるのかどうかお伺いしたい。

弓田警防課長：

第7波ピークの7月頃には病院収容にかなり苦慮いたしまして、現場滞在時間や救急全体の時間が長引いていた傾向があります。現場滞在時間が90分というお話ですが、今年度上半期はさらに現場滞在時間が延長しております。上半期に置きましては、5時間近い待機時間が発生しております。多いものでは12時間かかった事案も発生しております。

#### 報告第2号 「令和4年度下半期事業計画について」

松尾消防総務課長：

それでは、私から本年度下半期の事業計画につきまして、ご報告をさせていただきます。改めて第1回消防委員会の開催後の7月以降に実施済みの事業結果につきましてもあわせてご報告させていただきます。それでは資料8ページをお開きください。

初めに、7月3日に八街市スポーツプラザで開催されました第42回千葉県消防協会印旛支部消防操法大会であります。入場制限のため村島委員長、長谷川副委員長、伊藤正美委員、長谷川雅昭委員にご参加をいただきました。印旛支部消防操法大会の結果であります。ポンプ自動車の部で新勝寺、小型ポンプの部で前林第二の、両分団ともに優勝し、印旛支部代表として千葉県消防操法大会に出場いたしました。7月15日、第50回消防救助技術関東地区指導会が開催されました。7月30日、第58回千葉県消防操法大会ですが、こちらも入場制限がありまして、消防委員の皆様のご参加ができませんでした。千葉県消防操法大会の結果であります。両分団ともに努力賞の第4位、ポンプ自動車の部で最優秀4番員を獲得するなど好成績を収めています。

8月26日、第50回全国消防救助技術大会が開催されました。全国消防救助技術大会の結果につきましては、後ほど警防課長から報告第6号でご報告をさせていただきます。

9月25日、成田市消防団統一操法訓練を大栄運動場で開催いたしました。

10月13日、2022年度（第40回）成田国際空港航空機事故消火救難総合訓練を空港内整備地区エプロンで64機関、約700人が参加し開催されました。10月23日、第68回成田市消防操法大会を3年ぶりに大栄運動場で開催いたしました。成田市消防操法大会の結果は、ポンプ自動車の部で新勝寺、小型ポンプの部で飯田町が優勝し、来年度、四街道市で開催されます第43回千葉県消防協会印旛支部消防操法大会に出場いたします。

11月2日千葉県消防長会秋季総会が君津市で開催されました。11月2日から11日

の期間中にイオンモール成田で防火ポスターの展示会、11月6日にイオンモール成田で火災予防イベント、NARITA EMERGENCY VEHICLE CROSSING2022を開催し、約3千人の市民の方が来場しております。詳細は後ほど予防課長から報告第5号でご報告をさせていただきます。次に約5年に1回開催しております緊急消防援助隊全国合同訓練が、11月12日13日に静岡県で開催されました。第6回緊急消防援助隊全国合同訓練では、本市消防本部から救助小隊で成田消防署高度救助隊と後方支援隊の三里塚支援1が参加いたしました。訓練概要につきましては、後ほど警防課長から報告第7号でご報告をさせていただきます。11月13日、2022成田POPランマラソン大会が重兵衛スポーツフィールド中台陸上競技場で開催されました。昨年はコロナの影響により、約760人の参加者でありましたが、今年は約2千人ものランナーが参加いたしました。また、消防本部としまして、マラソンランナーの迅速な救護活動体制を実施するため消防特別警戒を行っております。

資料9ページをご覧ください。

12月4日、消防団大規模災害初動対応訓練。この訓練は、常備消防と非常備消防との連携強化を目的に、企画の段階から管轄消防署と協議を行った上で、消防活動に対する、知識、技術の向上を図り各消防署及び分署にて、各12分団総勢441名が参加し、訓練を実施しております。

年が変わりまして、令和5年1月13日、成田市の無火災を祈願し成田市消防団無火災祈願を成田山新勝寺で行います。

2月2日から3日には、千葉県消防広域応援隊合同訓練が千葉県消防学校で開催されます。本市消防本部からは消火小隊として三里塚水槽1、後方支援隊として三里塚支援1が出向予定であります。2月5日、令和5年成田市消防出初式を成田国際文化会館の駐車場で開催する予定で進めております。

3月1日から7日、春季全国火災予防運動。3月5日、消防団器具庫一斉点検。市内94カ部の消防器具庫等の点検を行います。3月24日、第73回千葉県消防大会、会場は青葉の森文化ホールです。なお、当日は本市消防音楽隊が演奏のため出演予定であります。また、3月には、第3回消防委員会を開催したいと考えております。

以上、令和4年度下半期事業計画についてご報告とさせていただきます。

## 【質疑等】

伊藤（新）委員：

消防組織という部分で考えていくと、どんどん不慣れで新しい職員が入ってきているところかと思いますが、コロナ禍となって、色々な面で条件も変わったり、状況も変わったりしている。そういうような状況の中で言うのもなんですが、消防職員には昔からストライキ権がありません。昔から争議行為ができないということで、消防には消防職員委員会という制度があって、職員が直接、消防長に物申すことが出来る仕組みが制度として存在するわけですが、これは機具の改善だとか、待遇の改善だとか、そういった職に絡めた提案や意見を消防長に直接言える制度があります。この予定の中にはないのですが、年度の前半に開催することということになっていたと思うので、すでにやっているものだとは想像するのですが、今年度、職員から消防長へどのような提案がなされたのか、また、消防長としてその提案をどのように受け入れて改善したのか、この辺のことについて概要をお知らせしていただきたいのが1点。

また、職員はなかなか消防長まで物を言うことが出来ないと思うので、何か言いた

いことがあったら言ってくれ、というような制度があるということをもう一度職員へ周知するということが計画の中に入れても良いのかなと感じましたが、その辺りのことについてご答弁をお願いいたします。

松尾消防総務課長：

初めに、消防委員の方々には、消防職員委員会について、ご存じない方もいらっしゃるかと思いますので、ご説明申し上げます。

この消防職員委員会とは、消防職員からの意見を幅広く求めることにより、消防職員間の意思疎通を図るとともに、消防事務に職員の意見を反映しやすくすることにより、職員の士気を高め、もって消防事務の円滑な運営に資することを目的として、消防組織法第 17 条の規定により消防本部に置くこととされています。

消防職員委員会に提出することができる意見は、

- (1) 消防職員の給与、勤務時間その他の勤務条件及び厚生福利に関すること。
- (2) 消防職員の職務遂行上必要な被服及び装備に関すること。
- (3) 消防用の設備、機械器具その他の施設に関すること。

となっております。これら 3 つに該当するものであれば、幅広く意見を提出することができます。提出された意見については、制度の趣旨に照らし、できるだけ広く審議し、その結果に基づき消防長に対して意見を述べることにより、消防事務の円滑な運営に寄与するとされています。

本市消防本部では、平成 8 年度に消防職員委員会を設置し、令和 4 年度までに 27 回の消防職員委員会を開催しております。

委員会では毎年 20 件程度の様々な意見が挙げられております。

今年度も、すでに消防職員委員会は開催しております。なかでも消防署の生活環境の改善で、防火衣洗濯機・空気ボンベ充填設備・トイレ・ウォシュレットなどの増設、職員被服や貸与品の改善などがあげられております。改善については少しずつ意見を検討しながら、諸問題を解決して改善を図っております。また周知の方法ですが、職員へ通知文を出しながら周知を図っていきたいと考えております。

青野消防長：

私から補足をさせていただきます。

松尾消防総務課長からありましたとおり、被服であったり、庁舎であったり、勤務状況等の要望を挙げてもらっております。その中で、消防職員委員会の委員で検討して、それを改善することが妥当であるとなったものについて、なおかつ、被服の改善要望のように、直ぐにできるものについては、適宜改善を図っております。また、庁舎の改善要望につきましても、予算の関係等もありますので、即時対応できない部分もありますが、その辺りのところは予算折衝の中でなるべく頑張るような形で進めているところです。なかなか、庁舎関連という思うように進まない現状もありますが、最大限努力はしているところです。

伊藤（新）委員：

今後も職員の不満が残らないように、「言える」環境を作るということは大事だと思います。消防は24時間一緒に生活しており、またチームでやる仕事ですから、チームワークが乱れるとすべてが乱れる、組織が乱れるということになるので、風通しの良い組織であってほしいと思います。是非、職員にもこの消防職員委員会という制度が十分に浸透するようにお願いしまして、私の要望とさせていただきます。

### 報告第3号 「AEDのバッテリー切れ事案に係る検証委員会の結果について」

弓田警防課長：

AEDのバッテリー切れ事案に係る検証委員会の結果について御報告させていただきます。

資料の11ページをお開きください。

本検証委員会は、本年2月4日に発生した「AEDバッテリー切れ事案」に対して、その原因を究明し、再発防止策を検討することを目的に設置されました。

検証委員会の実施日時及び事案概要につきましては、資料のとおりとなります。なお、第2回検証委員会の開催に時間を要してしまった要因は、当該AEDの製品調査報告書が令和4年9月16日に届いたためであります。

次にAEDの調査結果となります。当該AEDは販売メーカーである旭化成ZOLLにより製品調査が行われ、本体の異常はなく、バッテリーが消耗し寿命を迎えたことによりAEDが起動しなかったという結果となりました。

その結果を踏まえ、本検証委員会で事案発生の原因及び要因について検討した結果、日常点検の未実施、AEDの点検方法、AEDに不具合が発生した場合の対処についての3点があげられました。

再発防止策といたしましては、日常点検の実施方法及び報告要領を統一し、点検漏れを防止すること、インシデント事例を情報共有し、重大事故の発生を抑止すること、資機材にトラブルが発生した場合の対応要領を周知したこと、職員への教育にAEDに不具合が発生した場合における対処を追加したこと、また、常にバッテリー残量を確認できるよう使い捨てバッテリーから充電式バッテリーに変更することといたしました。

消防本部といたしましては、今後、二度とこのような事案を発生させぬよう職員一丸で再発防止に取り組んでまいります。

### 報告第4号 「大規模災害等における相互協力に関する業務協定について」

竹尾指揮指令課長：

それでは、大規模災害等における相互協力に関する業務協定の締結について、ご説明いたします。

資料15ページをご覧ください。

本市消防本部は、本年9月1日、日本空港無線サービス株式会社様と、「大規模災害等における相互協力に関する業務協定」を締結いたしました。

本協定は、成田国際空港内と本市消防本部指揮指令課との無線通信環境を整備し、空港内において、航空機事故を含む大規模災害発生時に、無線通信の維持・確保、情

報提供等の相互協力を行うことで、より円滑な消防活動を実現し、同空港内の地域における、防災力の強化を図ることを目的としております。

資料下の「連携イメージ」をご覧ください。

平時の際及び有事の際において、日本空港無線サービス株式会社様と、情報交換をしながら連携を図っていくところであります。

また、空港内の無線通信は、「空港 MCA 無線」を使用し、主に NAA 消防と交信を行います。

資料 16 ページをお開きください。本協定の締結により、本市消防本部指揮指令課に宅内端末型の空港 MCA 無線機、指揮指令課に配備されている指揮車に車載端末型の空港 MCA 無線機が導入されました。

資料下の「成田市消防本部現在の運用」をご覧ください。

成田消防署から出動する指揮隊は、出動と同時に車載端末の電源を入れ、NAA 消防と無線交信を行いながら、災害現場の部隊を統括しております。また、隊員間において、情報共有の確保が必要である場合は、災害現場へ、携帯端末型の空港 MCA 無線機を要請することで、情報共有の確保が可能となりました。

今後におきましても、空港 MCA 無線機を有効活用し、現場活動にあたってまいります。

以上、大規模災害等における相互協力に関する業務協定の締結について、ご説明いたします。よろしく願いいたします。

#### 【質疑等】

伊藤（新）委員：

MCA 無線ですから、タクシーでしたり、空港のリムジンバスで使用されていたりと、子局の免許を必要としないところがメリットということで、一定の評価はしますが、今回これは空港の中だけに限定するのをお伺いしたいのが 1 点。

また、例えば、空港外でも使えるということであれば、昔は MCA 無線の大きなアンテナが大袋に建っていたと思いますが、現在は撤去されているかと思えます。

そこで、今現在、MCA 無線のアンテナはどの辺りに、何基位あるのか、参考までにわかれば教えていただきたい。

竹尾指揮指令課長：

この空港 MCA 無線機は空港に特化した MCA 無線機ということで基地局が空港内に 2 か所ございます。周波数も一般の MCA 無線とは別のものになりますので、タクシーやリムジンバス等の運用とは別のものになります。空港内における災害時や、例えば通常業務においても空港内のチェックインカウンターやエアライン、貨物なども使用しておりますので、空港内の業務一般で使用されているものとして解釈いただきたいと思います。

また、空港外において航空機災害等が発生した際に、もし空港内の基地局に無線が届かないということであれば、移動基地局車を要請することもできますので、有効活用できたらと考えております。

#### 報告第 5 号 「NARITA EMERGENCY VEHICLE CROSSING2022 について」

佐藤予防課長：

それでは、予防課から「NARITA EMERGENCY VEHICLE CROSSING2022」について報告を

させていただきます。

タイトルですが成田の緊急自動車大集合といった内容になります。

資料 18 ページをお開きください。

まず始めに、イベント実施に際し、藤崎消防団長には「ちびっこ消防車」の搬送につきまして、ご協力いただいておりますので、ご紹介とお礼を述べさせていただきますと思います。ありがとうございました。

それでは、報告させていただきます。

令和 4 年 11 月 6 日、日曜日の午前 10 時から午後 4 時まで、ウイング土屋のイオンモール成田の屋外駐車場、および、1 階の「和み広場」を屋内会場のメインとして実施しております。

消防職員の参加は予防課から 7 名、各消防署から 16 名の合計 23 名、また、参加団体としては、本市消防本部のほか、成田警察署、陸上自衛隊 第 1 空挺団、NEXCO 東日本グループ、東京電力パワーグリッド、レッカーサービス木川となっています。

イベントの概要ですが、秋季全国火災予防運動にあわせて、昨年まで実施していた、防火フェスタ を見直し、消防単独ではなく様々な団体と共同開催することで、集客と広報の機会を増やし、市民の火災・災害に対する関心を高め、防火防災及び危機管理意識の向上を図ることを目的としたイベントとして開催しました。当日は約 3,000 人の市民の方が来場しております。

屋外会場では、各団体合計で 15 台の緊急車両を展示し、運転席などへの乗車体験などを行ったほか、消防音楽隊のコンサートでは「うなりくん」神崎町のゆるキャラ「なんじゃもん」に演奏に合わせてパフォーマンスを行っていただきました。

屋内会場では、ちびっこ消防車や装備品の展示を行ったほか、各団体ともパネルによる啓発活動等を実施しております。

写真はイベントの様子となります。消防音楽隊は出演時には、演奏の合間に、住宅用火災警報器の啓発など、火災予防広報を行っております。左下の写真は広報を行っている時の様子です。

イベントですが、屋外・屋内ともに、多くの親子連れの方が立ち寄りられ好評でした。

また、報告内には記載がありませんが、ケーブルテレビ・市内 FM ラジオの取材や、うなりくんツイッターでの発信など、様々な広報媒体を活用し、イベントの紹介と火災予防広報を行っております。

このイベントにつきましては、来年度以降も継続して開催する予定です。

予防課からの報告は以上となります。

## 報告第 6 号 「第 50 回全国消防救助技術大会結果について」

弓田警防課長：

第 50 回全国消防救助技術大会の結果についてご報告させていただきます。

資料の 20 ページをお開きください。

第 50 回全国消防救助技術大会は、8 月 26 日に東京都立川市において開催され、本市からは成田消防署の障害突破訓練 1 チームと大栄消防署のほふく救出訓練 1 チームの計 2 チームが参加いたしました。

訓練結果でございますが、障害突破訓練の成田チームは 96.2 秒で入賞しております。タイムは参加 22 チーム中 5 番目でした。ほふく救出訓練の大栄チームは 38.0 秒で入賞しております。タイムは参加 52 チーム中 11 番目でした。

ページをご覧ください。

当日の競技を記録した写真でございます。  
以上となります。

## 報告第7号 「第6回緊急消防援助隊全国合同訓練について」

弓田警防課長：

それでは、第6回緊急消防援助隊全国合同訓練についてご説明致します。

資料24ページをご覧ください。

緊急消防援助隊は、平成7年の阪神・淡路大震災を契機に創設されてから、国内で発生した大規模な災害に対して出動し、令和4年1月末時点で43回出動しております。最近では風水害や土砂災害の発生に伴う出動が増加しており、令和3年7月に静岡県熱海市で発生した土石流災害にも出動しております。

本訓練は緊急消防援助隊の消火・救助技術や指揮・連携活動等の向上を目的に5年に一度、全国の緊急消防援助隊が一同に会して行う訓練です。

今回の訓練は近年、発生が危惧され大きな被害が見込まれている南海トラフ地震を想定し、11月12日、13日の2日間に渡り、静岡県で実施されました。全国から627隊、千葉県から33隊が出動し、本市からも高度救助隊5名で編成した救助小隊と本部職員4名で編成した後方支援小隊の2隊が出動し、静岡県内の各会場で訓練を実施しました。

訓練内容についてはお手元の資料「6. 訓練内容」にある通りとなります。

写真の①から⑤をご覧ください。部隊参集訓練については、一次終結場所を経由し、千葉県大隊の二次集結場所である東名高速自動車の海老名サービスエリアまで移動し、海老名からは活動開始前の進出拠点である足柄サービスエリアに県大隊で移動するまでが訓練となります。当日は、海老名SAから任務ごとに分かれて移動、活動することになりました。

写真⑥から⑧をご覧ください。部隊運用訓練は、海老名SAで分かれた消火隊、救助隊がそれぞれの訓練会場へ移動し、付与された想定のもと訓練を実施しました。本市消防本部は静岡県消防学校（静岡市）で実施された複合建築物火災対応訓練に参加し、三連梯子で建物2階にいる要救助者の救助活動を担当しました。

写真⑨と⑩をご覧ください。こちらは静岡県消防学校で実施された都市型搜索救出訓練に参加した京都府大隊の活動の様子です。

写真の⑪と⑫をご覧ください。宿営訓練は、海老名SAで分かれた後方支援小隊が、千葉県大隊の宿営訓練会場である小笠山総合運動公園（掛川市）へ移動し、宿営用のエアテント、給食活動を実施しました。これまでは本部ごとに後方支援活動を実施していましたが、都道府県大隊での一体的な後方支援活動に取り組むよう消防庁から求められていることから、本訓練で初めて習志野市に無償貸与されている拠点機能形成車を共同使用した活動をしました。ここまでが1日目の訓練となります。

2日目の訓練について説明いたします。写真⑬と⑭をご覧ください。まず、部隊運用訓練は、メイン会場の富士山静岡空港西側県有地において、工場で化学薬品が漏洩し、工場職員が多数倒れているという想定のもと、毒劇物漏洩災害対応訓練に参加しました。東京消防庁、横浜市消防局、北海道大隊、岡山県大隊とともに、複数部隊間の活動連携と原因物質の特定、適切な感染防止措置を図ったうえで迅速な要救助者の救出に主眼をおいた訓練を実施しました。

続いて写真⑮と⑯をご覧ください。こちらは他県の大隊が活動したトンネル災害複合訓練と木造家屋倒壊救出訓練の写真となります。トンネル火災複合訓練は4県大隊

で 51 隊、木造家屋倒壊救出訓練は 5 府県大隊で 56 隊が活動いたしました。

宿営訓練は、訓練参加部隊が宿営会場を出発後、訓練で設営した資機材を拠点機能形成車に収納し、9 時 00 分に後方支援小隊は解散。その後、16 時 25 分に帰隊しております。救助小隊は部隊運用訓練終了後、14 時に会場を退出し、21 時 15 分に帰隊となりました。

以上となります。

## 【全体を通じての質疑等】

四宮委員：

この 12 月から国家資格も導入されたドローンに関して、レベル 4 とされるようなエリアも飛行できるようになったということで、様々な分野や災害現場でも活用が期待されている中、成田市の常備消防、非常備消防ともに、活用の計画があれば教えていただきたい。

松尾消防総務課長：

非常備消防のドローン運用につきましては、成田市消防団役員で構成します消防団充実強化検討委員会で、資格や運用面などの様々な課題を検討したいと考えております。

弓田警防課長：

常備消防では、狭隘空間や俯瞰的な情報収集、交通途絶網場所の飛行など、陸上からのアプローチが困難な場合に、効果的に利用しようと考えております。

藤崎消防団長：

非常備消防でのドローンの活用については、これから検討していきたいと考えております。

## 5 その他

令和 4 年秋の叙勲及び褒章受章者について

松尾消防総務課長：

令和 4 年秋の叙勲及び褒章の受章者について、ご報告させていただきます。

恐れ入りますが、資料 29 ページをご覧ください。

令和 4 年秋の叙勲において消防本部元消防長で、現在、消防委員であります伊藤 新一様が瑞宝小綬章に、次に消防団元団長で、現在、消防委員長であります村島 義則様が瑞宝双光章に、次に第 39 回危険業務従事者叙勲において消防本部元職員であります鈴木 郁雄様、宮内 勝様、柳町 正雄様が瑞宝双光章に、また、椎名 正明様が瑞宝単光章に、次に令和 4 年秋の褒章において消防団本部付分団長 赤崎 真辞様が藍綬褒章に、それぞれ受章の栄に浴されました。おめでとうございます。

なお叙勲及び褒章の伝達式等につきましては、コロナの影響により中止となっております。

以上、令和 4 年秋の叙勲及び褒章の受章報告とさせていただきます。

6 傍聴者  
0人

7 次回開催日時（予定）  
令和5年3月